

今日の説教のポイント<使徒言行録1章1~11節>

イエス様が昇天されたことに込められた「恵みの意味」を考えます。

①イスラエルの国の再建の時？ 虫がいい話！

弟子たちは復活された主が天に上げられるなど想像できず、逆に、いよいよイスラエル王国の再建の時なのかと思いました(6)。それではあまり虫がよすぎます。何の苦労もなく、すぐゴールに到着なわけですから。しかし、実際には、神様は、弟子たちがイエス様の後を引き継いで福音を宣べ伝える期間をその後に用意しておられたわけです(8)。それは私たちにとって苦労の期間ではありません。むしろ、神様を覚えイエス様の御苦しみに感謝しながら生きられる恵みの期間と考えるべきでしょう。弟子たちは五旬祭にこのことをはっきり知らされたのです。

①ヨハネの水による洗礼と聖霊による洗礼の違いは？

洗礼者ヨハネが行った「罪の赦しを得させるための悔い改めの洗礼」(マルコ1:4)と、五旬祭の時に弟子たちが受けた「聖霊による洗礼」(5)の「恵みの違い」は何でしょうか？ ヨハネの洗礼の時の恵みは、自分中心の生き方から神様中心の生き方に方向転換することの大事さに気づかされたことでした。五旬祭の時の聖霊による恵みは、それでいいのだという確信を「イエス・キリストの存在と出来事によって」もっとはっきりと神様から確信させられた恵みと言っていいでしょう。だから、弟子たちは、この、神様がイエス様によって起こされた良き知らせ(福音、good news)を世界中に宣べ伝える者となったのです！

③主が去られて分かって来る、「主はいつも共におられる！」

主が天に上げられて弟子たちは呆然としましたが(10)、すぐに次にすべきことに取り組みました(11-26)。主がおられないという不安はそこには感じられません。すでに「いつも共におられる主」(マタイ28:20)を覚えて生き始めているからです。その確信が確かになった時、私たちは主の救いを宣べ伝えるようになるのです！ 「聖霊によらなければ、「だれも“イエスは主である”とは言えないのです」(Iコリント12:3)。